

手紙は明日には着く。
どう彼女は解釈するだろうか。

「都合が良ければ来てください。」と書いたのが
ものすごく、気になった。

なぜ、遠慮なんかしたんだ。

「一方的で、悪いと思って、
絶対に来てください」とは、書かなんだ。

それが、何か、ひっかかる。
多分、来ないのでは。

僕は最悪の事を考えた。
気持ちだが、どんどん沈んで行った。

しかし、それとは、裏腹に、
どんどん、阿蘇火口の視野が広がった。

雄大という言葉が当てはまる。
ぼーとなり、なに考える事もなく、
景色に目を大きく開ける。

ガイドさんのまわりに、先を争う様に、
ファンの男連中がくっついて、先を急いでいるが、
僕は、指図されるままに、ついてゆくのみ。

顔の炭の洗い残しが気になり、
あまり、ガイドさんには近づかなかったが、
僕が避けても、ジロジロ見られてるのは、わかった。